

オーラルケア

シグワン犬用360°歯ブラシまたはガーゼによるオーラルケア効果の経時的な比較

澤田 眞弓 成城こばやし動物病院

はじめに

近年、オーラルケアの重要性が注目され、飼い主の関心も高まってきている。オーラルケアのゴールドスタンダードは歯ブラシによるブラッシングといわれるが、歯ブラシによるケアは難しいというイメージから、手指によるケアや、ガーゼを使用するのケアを選択する飼い主も多い。

今回、オーラルケアの効果について比較するために、同一個体の左側と右側を用いて、歯ブラシによるケアとガーゼによるケアを2か月半継続し、その馴致性と歯石の再付着性、ケア効果について比較した。

材料および方法



【症例】 ミニチュアダックスフント、雄(去勢済)、11歳、体重5.5kg

動物は、犬1症例と猫1症例、重度の歯周病がなく歯ブラシまたはガーゼによるオーラルケアが可能と判断した個体に、麻酔下で歯石除去を行った後、右側をガーゼで左側を歯ブラシでケアを開始した。オーラルケアはほぼ毎日行った。



上: 歯ピカル(LOCOTRE 社)

下: シグワン 360° 歯ブラシ 犬用 超小型犬用(VIVATEC 社製)

VIVATEC 社 360° 歯ブラシは、全周に植毛されており、磨けているという安心感が得やすい。また動物病院専売品である、やや柄の長い歯ピカル(LOCOTRE 社)もある。

結果



各方法によるケア後 2.5 ヶ月。歯石の再付着は、ガーゼケア側に多くみられるが、歯ブラシ側でもわずかに付着している。しかし、歯ブラシケア側の方が、歯肉が引き締まっているように見える。

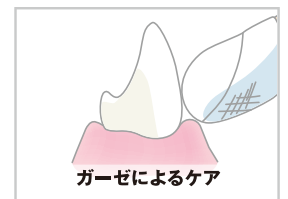
同日、両側を歯ブラシでケアを行った。その結果、歯ブラシでケアを続けていた左側は変化がみられないが、ガーゼケアを続けていた右側からは出血が見られた。このことから、右側の歯肉には歯肉炎があると考えられる。

考察

今回は、個体数が1症例と少数であることから、馴致性に関しては、個体差の域を出ないものと思われる。しかし少数とはいえ、当初歯ブラシによるケアを嫌がっていた症例が2週間程度でケアに慣れ協力的となったのは事実である。

ケアを継続して2.5ヶ月目の歯石の再付着は、臼歯では僅かに左右差がみられたが、比較的形状の単純な犬歯周辺では歯石量に違いはみられなかった。しかしながら、歯ブラシによるケアを両側に行ってみると、歯ブラシでのケアを続けていた左側では、殆ど変化はみられないのに対し、ガーゼでケアを行っていた右側歯肉では、いつれん歯石の付着がみられない犬歯部を含む複数の部位で出血が認められた。これは歯肉炎の存在が示唆され、歯周病予防に対してガーゼでのケアは不十分であることを示唆している。

そのため、たとえガーゼでのケアの方が飼い主に受け入れられやすいとしても、歯周病予防に最も重要な歯周ポケットのケアが不十分になるこ



と、そのため歯周病予防効果が薄いことを伝え、歯ブラシによるケアを積極的に推奨していく必要があると考えられる。

飼い主は、歯ブラシに対して難易度が高いと考える傾向にある。今回使用した、シグワン犬用360°歯ブラシは、歯ブラシ全周に植毛されており、動物が多少動いてもしっかりと歯面を擦ることが可能である。このような製品を使用すれば、飼い主の満足感や安心感を得ることができ、その後の継続したオーラルケアへつなげることが期待できる。